

2015年9月期第2四半期決算

2015年5月11日

MRI 株式会社三菱総合研究所

1. 2015年9月期第2四半期決算

2. 2015年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

4. 参考資料

2015年9月期 第2四半期のまとめ

売上高：394億円 前同比 $\Delta 27$ 億円 ($\Delta 6.5\%$)

- 前期のシステム開発案件・消費税増税前の売上早期化などの反動減

経常利益：32億円 前同比 $\Delta 7$ 億円 ($\Delta 19.0\%$)

- 減収及び販管費増加により、減益
- 原価抑制、稼働向上が寄与し、売上総利益率は改善

純利益：21億円 前同比 $\Delta 0$ 億円 ($\Delta 0.2\%$)

- 投資有価証券売却益の計上により、前年同期並み

第2四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	14年9月期	15年9月期				
	2Q累計 (10~3月) ①	2Q累計 (10~3月) ②	前年同期比 増減額 ②-①	増減率	公表予想 (2014/10/31) ③	公表 予想比 ②-③
売上高	42,211	39,449	△2,761	△6.5%	40,200	△750
売上原価	32,054	29,632	△2,421	△7.6%	—	—
売上総利益	10,156	9,816	△339	△3.3%	—	—
売上総利益率	24.1%	24.9%	+0.8P		—	—
販売費及び一般管理費	6,195	6,611	+415	+6.7%	—	—
営業利益	3,960	3,205	△754	△19.1%	3,210	△4
営業利益率	9.4%	8.1%	△1.3P		8.0%	+0.1P

●売上高の顧客業種別内訳・前年同期比増減理由

(百万円)

	前2Q累計	当2Q累計	増減額	増減率	増減理由
官公庁	7,662	7,471	△191	△2.5%	前期の消費税率引き上げに伴う売上早期化影響の反動減
金融・カード	20,645	19,141	△1,503	△7.3%	前期の大型案件の反動減及びメガバンク投資抑制影響
一般産業	13,903	12,836	△1,066	△7.7%	前期のシステム開発案件の反動減

第2四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

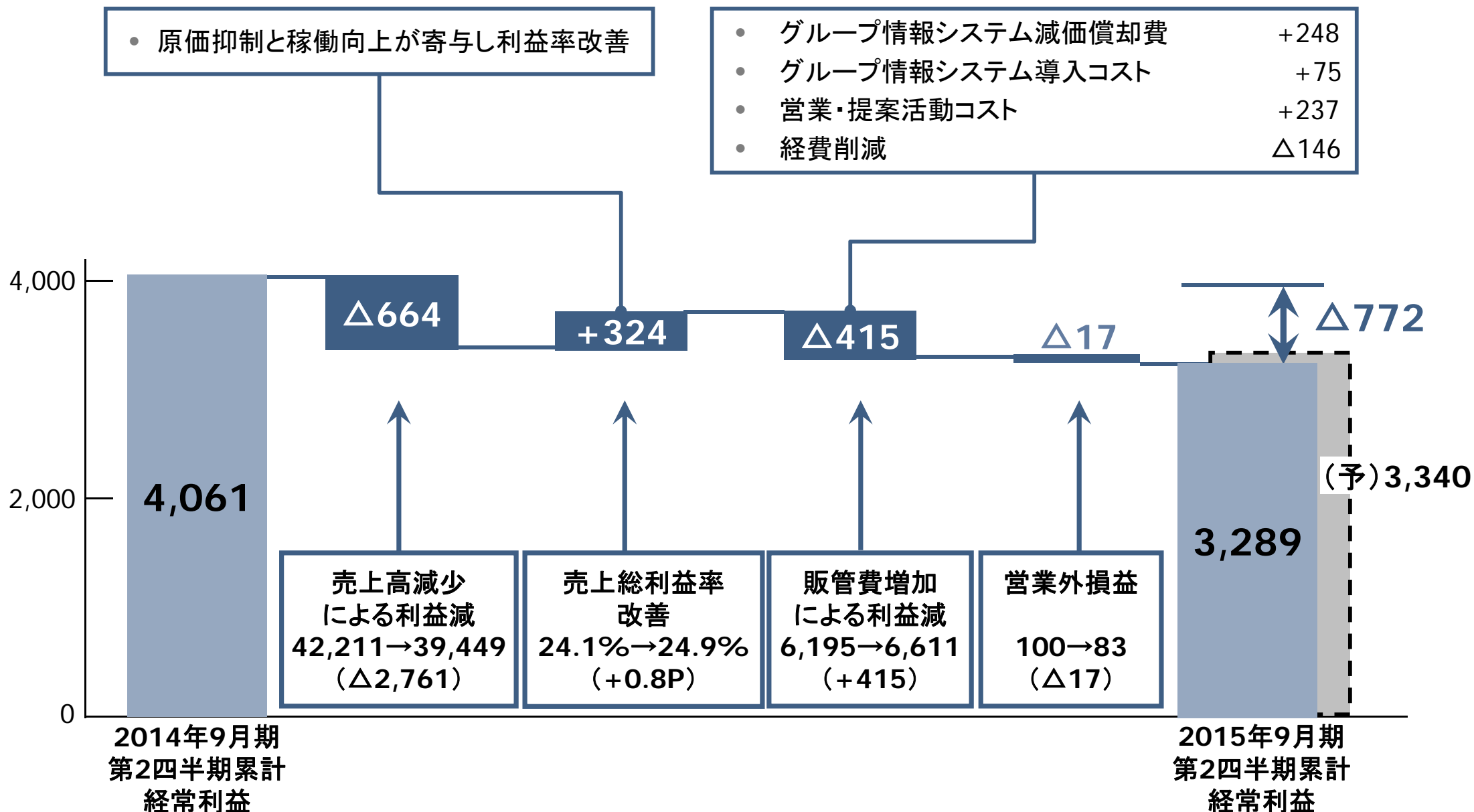
	14年9月期	15年9月期				
	2Q累計 (10~3月) ①	2Q累計 (10~3月) ②	前年同期比 増減額 ②-①	増減率	公表予想 (2014/10/31) ③	公表 予想比 ②-③
営業利益	3,960	3,205	△754	△19.1%	3,210	△4
営業外損益	100	83	△17	△17.1%	—	—
経常利益	4,061	3,289	△772	△19.0%	3,340	△50
特別損益	△18	386	+405	—	—	—
税金等調整前四半期純利益	4,043	3,676	△367	△9.1%	—	—
法人税等	1,670	1,311	△359	△21.5%	—	—
少数株主利益	266	261	△4	△1.7%	—	—
四半期純利益	2,106	2,102	△3	△0.2%	1,850	+252
1株当たり四半期純利益(円)	128.23	128.02	△0.21	△0.2%	112.64	+15.38

●特別損益の前年同期比増減理由

	前2Q累計	当2Q累計	増減額
投資有価証券売却益	—	405	405
固定資産除却損	△16	△10	△6

経常利益の変動要因 <前年同期比>

(百万円)



シンクタンク・コンサルティングサービス

(百万円)

	2014年9月期 2Q累計(10~3月)	2015年9月期 2Q累計(10~3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	13,898	13,382	△516	△3.7%
営業利益	1,913	1,860	△53	△2.8%
営業利益率	13.8%	13.9%	+0.1P	
経常利益	1,928	1,861	△66	△3.4%
受注高	19,046	15,974	△3,071	△16.1%
受注残高	27,316	28,007	+691	+2.5%

* 当期より報告セグメント区分を変更しており、前年同期の数値は変更後のセグメント区分に組替えております。

主なポイント

- 前期の消費税率引き上げに伴う売上早期化の反動減により、減収
- 原価抑制、受注増に伴う稼働向上により利益率は改善したが、販管費増により減益
- 受注順調。期初売上計画分はほぼ確保。来期売上予定の案件の出足良好

ITサービス

(百万円)

	2014年9月期 2Q累計(10~3月)	2015年9月期 2Q累計(10~3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	28,312	26,067	△2,245	△7.9%
営業利益	2,103	1,352	△751	△35.7%
営業利益率	7.4%	5.2%	△2.2P	
経常利益	2,193	1,441	△751	△34.3%
受注高	28,322	22,409	△5,912	△20.9%
受注残高	38,207	32,786	△5,420	△14.2%

* 当期より報告セグメント区分を変更しており、前年同期の数値は変更後のセグメント区分に組替えております。

主なポイント

- 前期の開発案件の反動減、メガバンク投資抑制影響により、減収
- 減収及び販管費増加により、減益
- 大口顧客の開発案件の計画・日程見直しなどにより、期中受注は前年比減

1. 2015年9月期第2四半期決算

2. 2015年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

4. 参考資料

2015年9月期 連結業績予想

前回(2014/10/31)予想から修正あり

受注状況を鑑み、通期予想を下方修正

売上高予想：870億円 前期比 $\Delta 4$ 億円 ($\Delta 0.5\%$)

- シンクタンク・コンサルティングサービス：
環境・エネルギー案件など堅調な受注状況を反映、期初予想比 +20億
- ITサービス：
大口顧客の投資計画・日程見直しなどにより、期初予想比 $\Delta 50$ 億

経常利益予想：59億円 前期比 $\Delta 5$ 億円 ($\Delta 8.4\%$)

- 前期の特殊要因(年金数理差異)を除いた実力ベースと同水準

当期純利益予想は35億円、前期水準を確保

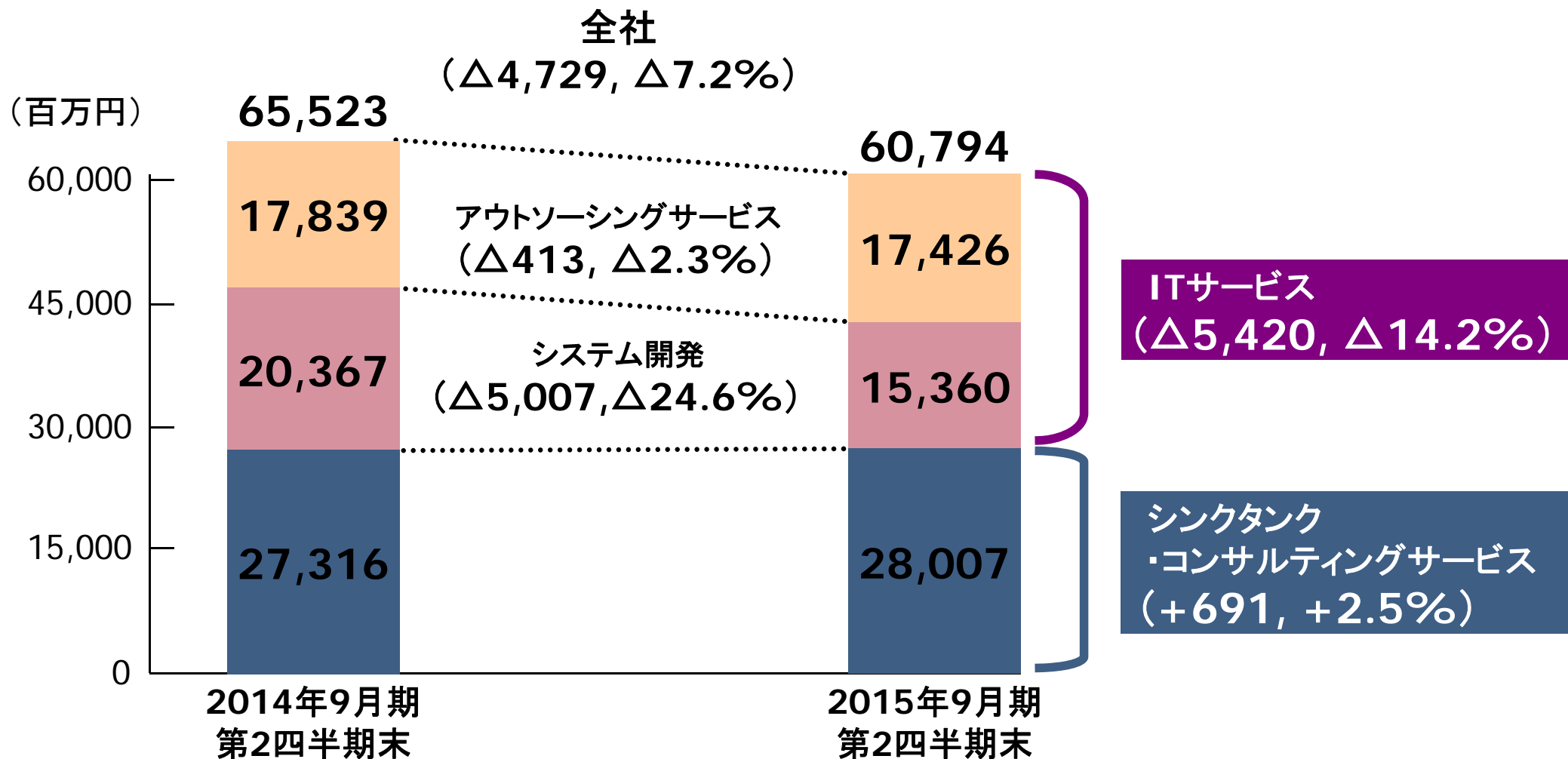
2015年9月期 連結業績予想

前回(2014/10/31)予想から修正あり

(百万円)

	2014年9月期	2015年9月期				
	実績 ①	今回予想 ②	前期比 増減額 ②-①	増減率	前回予想 (2014/10/31) ③	前回予想比 ②-③
売上高	87,400	87,000	△400	△0.5%	90,000	△3,000
シンクタンク・コンサルティングサービス	32,532	36,000	+3,467	+10.7%	34,000	+2,000
ITサービス	54,867	51,000	△3,867	△7.0%	56,000	△5,000
営業利益	6,079	5,600	△479	△7.9%	6,100	△500
営業利益率	7.0%	6.4%	△0.6P		6.8%	△0.4P
経常利益	6,442	5,900	△542	△8.4%	6,500	△600
当期純利益	3,405	3,500	+94	+2.8%	3,700	△200
1株当たり当期純利益(円)	207.36	213.10	+5.74	+2.8%	225.28	△12.18

セグメント別受注残高 <前年同期末比>

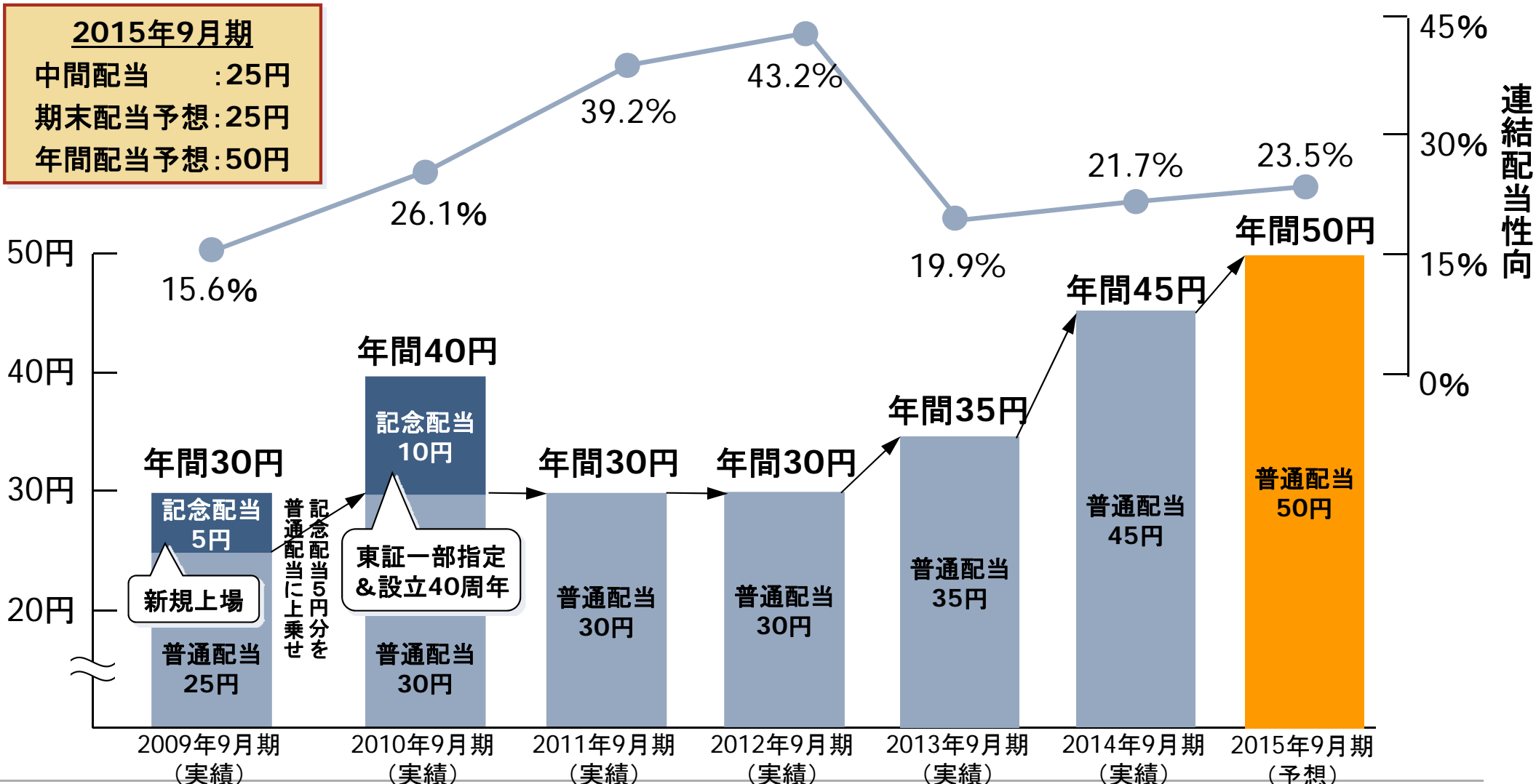


2015年9月期 配当予想

前回(2014/10/31)予想から修正なし

配当方針

安定的な配当を継続的に行いながら、業績や財務健全性のバランス等も総合的に勘案しつつ、配当水準の引き上げを目指す



1. 2015年9月期第2四半期決算

2. 2015年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

4. 参考資料

6年の計・持続的成長への主な取り組み

No.1 総合シンクタンクの成長持続

- 「Think & Act」社会課題解決・改革を実践
- 官民隣接・融合領域事業にも積極展開

三菱総研DCSの業務エリア拡大＋上流展開

- 企画・構想段階から参画することで、大型案件受注・新領域参入へ
- 人事BPOの商品力強化、データセンターを活用したストックビジネス拡大

シンクタンク・コンサルティングサービス

「Think & Act」社会課題解決・改革を实践

- 社会の中長期的課題、政府成長戦略分野を基軸に
その実現を新たな商機に
- 官民隣接・融合領域事業にも積極展開

2020年を
マイルストーンとして
「世界の中の日本」
復活へ

＜政府成長戦略への対応重点分野例＞

日本の産業再興	科学技術イノベーション
	世界最高水準のIT社会
	地域活性化・地域構造改革
戦略市場創造	国民の「健康寿命」の延伸
	クリーン・経済的なエネルギー需給
国際展開戦略	インフラ輸出

MRIの活躍分野

エネルギー政策

医工連携*

海外インフラ輸出

地方創生

* 高度なものづくりの技術を有する中小企業等と医療機関等との連携

ITサービス

- 金融機関はグローバル化を加速、関連IT投資も増加
- 企画・構想段階から参画することで、大型案件受注・新領域参入へ
- 業種・業態に依存しない
基盤・運用領域での新規顧客開拓

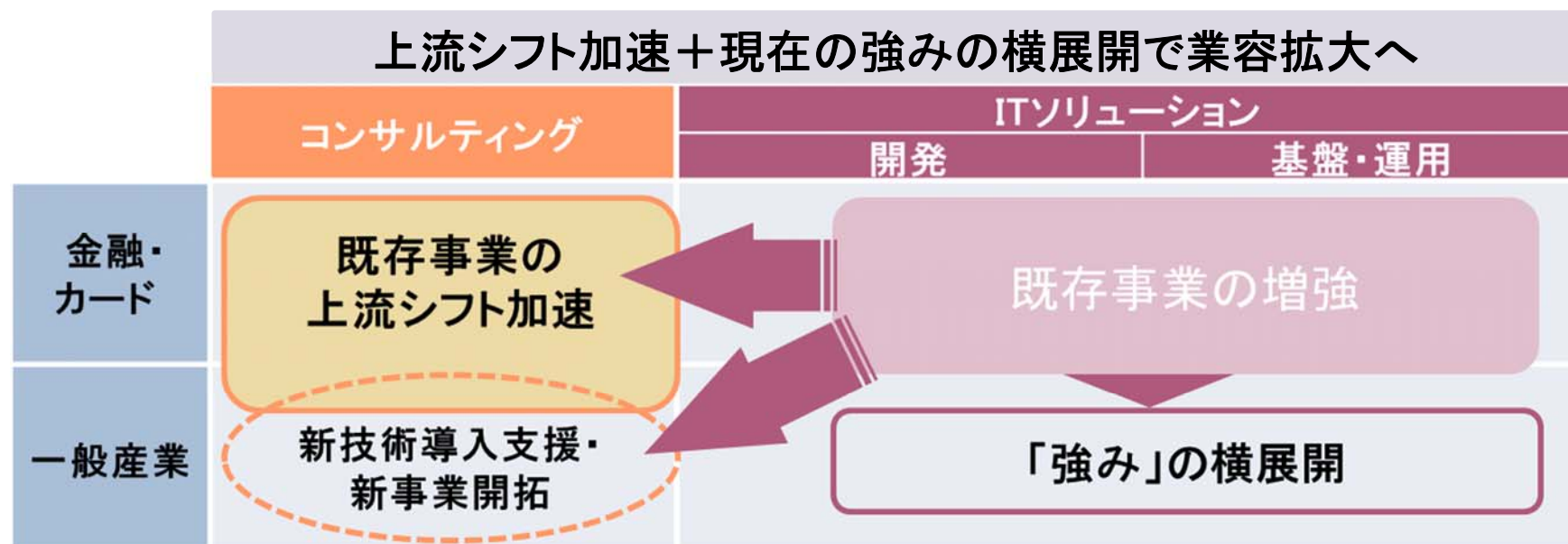
今後獲得を目指す主な大型案件の分野

米州拠点基幹システム関連

海外拠点向け勘定システム関連
(日本サイド)

アジア拠点(支店)の現地での開発支援

クレジットカード業界再編を受けたシステム対応



1. 2015年9月期第2四半期決算

2. 2015年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

4. 参考資料

現在の強みを伸長 — Think & Act事業

阿蘇くまもと空港に続き、兵庫県でメガソーラー発電事業スタート

事業の概要

所在地	兵庫県多可郡多可町中区西安田458-9他
事業主	多可町安田郷メガソーラー発電合同会社
出力規模	約14.5MW
年間予想 発電量	合計約16,059MWh (一般家庭約4,850世帯分*の年間電力使用量に相当)

*1世帯あたり3,313キロワット/時で算出 出典:電気事業連合会(2012年度)

多可町安田郷メガソーラー発電合同会社

東京センチュリーリース様
(ファイナンス、アレンジメント)

四電エンジニアリング様
(発電所の設計・施工)

京セラ様
(太陽光パネル・周辺機器供給)

三菱総合研究所
(事業全体統括・事業運営)



再生可能エネルギー事業化ノウハウを活かし、他地域展開へ

将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。



株式会社三菱総合研究所

経理財務部 IR室

TEL : 03-6705-6001
FAX : 03-5157-2171
E-mail : ir-info@mri.co.jp
URL : <http://www.mri.co.jp/>